

## 平成30年度「インフラ歴史ツアー」催行応募要領

北海道開発局では、北海道命名150年を記念し、これまで私たちの暮らしや、北海道の産業を支えてきたインフラをより身近なものとして実感いただけるよう、インフラの整備の歴史を辿りながら、その効果を体感できる「インフラ歴史ツアー」を実施します。

「インフラ歴史ツアー」の企画・催行を希望される場合は、以下によりお申し込みください。

### 1 応募から催行までの流れ

◆平成30年度「インフラ歴史ツアー」催行申込書受付

平成30年8月3日(金) ～ 平成30年8月16日(木)

↓

◆ツアーを企画する旅行会社等を決定

平成30年8月16日(木)

※複数の申込があった場合は抽選により決定します。

抽選日時：平成30年8月20日(月) 11:00～

抽選場所：札幌第1合同庁舎 14階 北海道開発局開発調整課  
(札幌市北区北8条西2丁目)

↓

◆ツアー企画・打合せ

ツアーの催行は、9月、10月の期間中 各地域ごと2回まで

※旅行会社等の希望日程を基に日程調整を行います。

↓

◆ツアー参加者の募集

↓

◆ツアーの実施

↓

◆アンケート調査等へのご協力

## 2 募集するツアーとテーマ

「インフラ歴史ツアー」では、ツアー毎にテーマを設定しています。  
今回、旅行会社を募集する3件のツアーのテーマは以下のとおりです。(詳細については、別紙1～3参照)

### (1) 美瑛・上富良野編

#### ◇『美瑛・上富良野地域における火山との共生と火山防災』

十勝岳大正泥流と火山砂防事業のあらましについて、実際に現地を巡りながら学び、地元で穫れた野菜などの食を通じ、防災事業と農地整備の結果、火山の麓にあるこの地域で安心した生活や農業ができるようになったことを体感します。

### (2) 十勝編

#### ◇『日本の食卓を支える十勝農業とその礎となるインフラをめぐる』

開拓以前は農業に適していなかった十勝地方が、日本を代表する食糧基地となるまでに発展してきたその歴史を振り返り、実際に農業を守るインフラの現場を見学することで、日本の食卓を支える十勝農業とその礎となるインフラの効果を体感します。

### (3) 釧路編

#### ◇『地域の暮らしと産業を支える「釧路港」の歴史』

東北海道の主要産業である酪農を支える釧路港の役割や開港から現在に至るまでの歴史と、釧路港が商業港として成長するためには不可欠であった港に通じる鉄路の歴史を現地を巡りながら学び、地域の産業の変遷とインフラ整備の成果を体感します。

## 3 催行日程及びツアー定員

ツアー催行日程及び定員については、以下のとおりです。

催行日程：本年9月から10月の期間中 各地域 2回まで

ツアー定員：「美瑛・上富良野編」、「十勝編」 各回 40名  
「釧路編」 各回 20名

## 4 見学対象施設

各ツアーでご紹介できる施設等は、別紙「北海道命名150年記念インフラ歴史ツアー【概要】」の「メニューリスト」のとおりです。

なお、施設等の詳細については、北海道開発局及び各施設のホームページをご参照ください。

## 5 応募要件

当ツアーの催行に応募いただくには、以下の要件を満たすことが必要です。

- (1) 次の要件のいずれかに該当していること。
  - ① 旅行業法に基づく、第1種～第3種及び地域限定のいずれかの登録を有していること。
  - ② 一般貸切旅客自動車運送事業の許可を有していること。
  - ③ 公益社団法人 北海道観光振興機構の正会員であること（地方公共団体及び個人を除く）。
  - ④ 北海道の地域支援事業のうち、「平成29年度地域観光活性化促進事業」または「平成29年度広域観光推進事業」で採択された事業の応募団体であること。
- (2) 北海道開発局が定めた条件について同意していただけること。
- (3) 次のいずれにも該当しないこと。
  - ① 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第2号に規定する暴力団をいう。）又はその構成員（暴力団の構成団体の構成員を含む。）若しくは暴力団の構成員でなくなった日から5年を経過しない者（以下「暴力団の構成員等」という。）の統制の下にある。
  - ② 役員（非常勤を含む。）及び経営又は運営に事実上参加している者が暴力団の構成員等である。

## 6 催行申込について

当ツアーの催行に応募される場合は、期限までに以下によりお申し込みください。

### (1) 提出書類

- ① 様式－1【平成30年度「インフラ歴史ツアー」（〇〇編）催行申込書】
  - ※希望する地域をご確認下さい。
  - ※複数の地域のツアーを申し込むこともできます。
- ② 様式－2【同意書】
  - ※各様式は、北海道開発局のホームページ『平成30年度インフラ歴史ツアー企画・催行の募集』からもダウンロードが可能です。ダウンロードができない場合は、「事務局」までご連絡ください。（「12 総合窓口」参照）
- ③ 添付資料  
会社概要または団体の概要がわかる書面  
（平成30年度「公共施設見学ツアー」に参加されている場合は不要です。）

### (2) 提出方法等

- (1)に掲げる提出書類を持参又は郵送により、下記期限までに事務局まで提出してください。（メール、ファックス不可）  
提出期限 平成30年8月16日（木）必着

### (3) その他

必要書類の到着後、事務局から申込受付を完了した旨を電話等により連絡します。8月16日（木）までに連絡がない場合は、事務局までご連絡ください。

## 7 資金的補助について

当ツアーでは、より多くの方々にツアーに参加していただくため、催行1回毎に北海道インフラPR実行委員会から、ツアー料金の低減を目的とした金銭補助を受けることができます。(金額については、行程表に基づき、出発地と見学施設等を勘案した推定走行距離、所要時間及び使用したバスにより決定します。)

(例) 推定走行距離100km、所要時間10時間、大型バス使用の場合 84,000円

## 8 旅行会社等の決定について

応募締め切り後、申込者宛に結果を連絡します。

申込者が複数あった場合は、下記のとおり抽選によりツアーを企画・催行する者を決定します。

### (1) 抽選日時

平成30年8月20日(月) 11:00～

### (2) 抽選場所

札幌第1合同庁舎 14階 北海道開発局開発調整課(札幌市北区北8条西2丁目)

### (3) 抽選方法

a くじ引きにより決定します。

b くじを引く順番は、催行申込書を受理した順とします。

c 抽選に参加できない場合は、抽選に関する件を事務局に一任することができます。

## 9 ツアーの企画について

(1) 決定した旅行会社等には、事務局からツアーの企画、打合せ方法等について連絡します。

(2) 各施設の見学が可能な時間帯は、原則として8時30分から17時00分までとなります。

(3) 各ツアーの企画に当たっては、別紙「北海道命名150年記念インフラ歴史ツアー【概要】」の「メニューリスト」から見学施設等を選択いただけます。選択は自由ですが、当ツアーの趣旨から、可能な限り「メニューリスト」からの選択をお願いします。

なお、ツアーテーマに沿った説明を行うため、メニューリストの「☆」印を付した施設等については、必ず行程に組み入れていただきます。

(4) 8月24日を目処に、ツアー催行希望日を事務局までお知らせください。ツアー催行予定日が確定後、各施設の担当者と企画相談、打合せをお願いします。

## 10 ツアー参加者の募集及びツアーの実施について

(1) ツアー参加者募集の際には、北海道開発局のホームページから各社ホームページの当該ツアーの募集ページへリンクを設定させていただきますので、募集を開始した際には、速やかに事務局までご連絡ください。

(2) 募集パンフレット等には、北海道インフラPR実行委員会から補助を受けている旨を記載するようお願いします。

- (3) ツアー催行の有無（「催行決定」または「催行中止」）につきましては、ツアー催行予定日の7日前（土・日曜日、祝日に当たる場合はその直前の平日）の17時まで事務局長までご連絡ください。
- (4) 施設見学の際には、各施設担当者との打合せ事項や、各施設ごとの注意事項・制限事項等を遵守いただき、現地担当者の指示に従っていただきますよう、お願いいたします。
- (5) 天候状況、災害（豪雨、豪雪、地震、津波等）の発生及び突発的なやむを得ない事由により、施設管理者（北海道開発局等）が見学を実施できないと判断した場合は施設の見学を中止します。なお、見学中止及び見学中に発生した事故等により、旅行会社等及びツアー参加者に生じた損害については、旅行会社等の責任でご対応いただきます。

## 1.1 アンケートの実施について

今後の「インフラ歴史ツアー」実施の参考とさせていただくため、旅行会社等及びツアー参加者全員を対象としたアンケート調査へのご協力をお願いします。（ツアー参加者のアンケート調査につきましては任意とします。）

アンケート調査票には、主催者用（様式-3）とツアー参加者用（様式-4）がありますので、ツアー催行後10日を目処に事務局まで持参又は郵送願います。

## 1.2 総合窓口

各種お問い合わせに関しては、下記事務局までご連絡ください。

### 【申請書郵送先及び総合窓口】

事務局：〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目札幌第1合同庁舎  
 北海道開発局 開発監理部 開発調整課 インフラ歴史ツアー担当

- 電話 : 011-709-2311 (内線5477)
- FAX : 011-709-9215
- E-mail : hkd-ky-genba-kengaku@ml.mlit.go.jp

## 1.3 その他

- (1) 本要領に定めのない事項については、北海道開発局と旅行会社等との間で協議の上決定します。
- (2) 北海道開発局の施設見学部分については、北海道開発局が無償で対応します（北海道開発局の職員が施設に関する説明や施設内の案内等をします。）。
- (3) 旅行代金については、北海道開発局の施設見学が無償であることを前提として、設定願います。
- (4) 北海道開発局が管理する施設以外の見学には、料金がかかる場合があります。
- (5) 旅行会社等において運行されるバスにつきましては、公益社団法人日本バス協会の認定を受けている優良バス会社の利用を推奨します。

## ○北海道命名150年記念 インフラ歴史ツアー （五感で感じよう! 「美瑛・上富良野地域」と火山との共生） 【概要】

### ツアーテーマ 『美瑛・上富良野地域における火山との共生と火山防災』

- ◇十勝岳山麓の美瑛・上富良野地域では、明治中期以降、入植者による開墾が進み、畑作や稲作などの農業が営まれていました。1926年（大正15年）、十勝岳の噴火により発生した火山泥流がこの地域を襲い、100名以上もの人々が犠牲となり、それまで整備されてきた農地にも大きな被害を及ぼす大災害が発生しました。
- ◇この火山泥流災害により、農地は莫大な量の酸性泥土と流木に埋めつくされましたが、並々ならぬ労苦を注ぎ泥土を排除し、客土を繰り返した結果、農地の復旧・復興が成し遂げられました。この大災害を契機として、その後、火山砂防事業をはじめとする火山との共生を目指す取組が進められ、今日では、美味しい野菜や小麦を生産する豊かな地域となっています。
- ☆本ツアーでは、十勝岳大正泥流と火山砂防事業のあらましについて、実際に現地を巡りながら学び、地元で穫れた野菜などの食を通じ、防災事業と農地整備の結果、火山の麓にあるこの地域で安心した生活や農業ができるようになったことを体感します。

### 催行予定

平成30年9月～10月の期間内で2回まで【土日祝日可】（日程は調整の上決定）

### ツアー定員

各回 40名

### 諸条件等

- ツアーを企画する際は、「メニューリスト」から自由に選択いただけます（ただし、★印のメニューは必須とさせていただきます）。この他にもグルメ、観光スポットなど行程に組み入れていただけます。
  - 「1三浦綾子記念文学館」では、（公財）三浦綾子記念文化財団の協力により、三浦文学案内人が解説、ご案内します。
  - 「2十勝岳火山砂防情報センター」、「3美瑛川床止工群とブロック堰堤（青い池）」、「5農業農村整備事業の現場」では、北海道開発局の職員が解説、ご案内します。
  - 「4土の博物館 土の館」では、スガノ農機（株）の協力により、職員が解説、ご案内します。
- ※催行に当たり、北海道インフラPR実行委員会による支援を受けることができます。  
 ※「三浦綾子記念文学館」の見学には入館料がかかります。  
 ※この他の詳細については、催行応募要領をご参照ください。

### メニューリスト

- |                       |                                     |           |
|-----------------------|-------------------------------------|-----------|
| 1 三浦綾子記念文学館           | （著書「泥流地帯」の背景となった火山災害や復興について解説）      | （所要目安30分） |
| 2 十勝岳火山砂防情報センター（★）    | （火山災害と火山砂防事業について解説）                 | （所要目安30分） |
| 3 美瑛川床止工群とブロック堰堤（青い池） | （砂防堰堤の見学・解説）                        | （所要目安30分） |
| 4 土の博物館「土の館」（★）       | （農地圃場開発や災害からの農地復興の解説・資料見学）          | （所要目安30分） |
| 5 農業農村整備事業の現場         | （日新ダム（噴火による鉱毒被害対策として整備されたダム）の見学・解説） | （所要目安30分） |
| 地元産の食材を用いた昼食（★）       | （食の専門家からのアドバイス等の支援）                 |           |

## ○北海道命名150年記念 インフラ歴史ツアー (五感で感じよう! 十勝農業の歴史)

### 【概要】

#### ツアーテーマ 『日本の食卓を支える十勝農業とその礎となるインフラをめぐる』

- ◇国内有数の農業基地として有名な十勝地方ですが、開拓以前は火山灰性土壌や湿地が広く分布しており、農業に適していない土地でした。また、この地域を流れる十勝川や札内川は、度々氾濫し、水害を引き起こしていました。
- ◇明治初期の「晩成社」による開拓や、その後の土地改良事業により農作物の生産性が向上。また、治水事業により水害が抑制され、安心して生活や農業が営めるようになりました。
- ◇平成28年夏には、台風による洪水で農地の表土が流出し、十勝農業に大きな被害が生じました。この被害は、十勝地方のみならず、首都圏で野菜価格の高騰を招くなど、全国に影響を及ぼしました。
- ★本ツアーでは、開拓以前は農業に適していなかった十勝地方が、日本を代表する食糧基地となるまでに発展してきたその歴史を振り返り、農業を守るインフラの現場を実際に見学することで、日本の食卓を支える十勝農業とその礎となるインフラの効果を体感します。

#### 催行予定

平成30年9月～10月の期間内で2回まで【土日祝日可】(日程は調整の上決定)

#### ツアー定員

各回 40名

#### 諸条件等

- ツアーを企画する際は、「メニューリスト」から自由に選択いただけます(ただし、★印のメニューは必須とさせていただきます)。この他にも観光スポット、お土産屋など行程に組み入れていただけます。
  - 「1帯広百年記念館」では帯広市の協力により学芸員が解説、ご案内します。
  - 「2国営農地再編整備事業現場」、「3畑地かんがい事業現場」、「4十勝ダム 又は 札内川ダム」では北海道開発局職員が解説、ご案内します。
- ※催行に当たり、北海道インフラPR実行委員会による支援を受けることができます。  
 ※「帯広百年記念館」の見学、「農業体験」には料金がかかります。  
 ※この他の詳細については、催行応募要領をご参照ください。

#### メニューリスト

1 帯広百年記念館(★)	(農地開拓の歴史解説・見学)	(所要目安40分)
2 国営農地再編整備事業現場	(区画整理の現場や排水路工事の見学・解説)	(所要目安20分)
3 畑地かんがい事業現場	(札内川頭首工や大口径パイプライン内部の見学・解説)	(所要目安20分)
4 十勝ダム 又は 札内川ダム(★)	(ダム内部の見学・治水事業やH28災害復旧の解説)	(所要目安90分)
5 農業体験	(野菜の収穫体験など)	(所要目安60分)
地元産の食材を用いた昼食(★)	(食の専門家からのアドバイス等の支援)	

## ○北海道命名150年記念 インフラ歴史ツアー (五感で感じよう! 地域産業の発展と釧路港の歴史) 【概要】

### ツアーテーマ 『地域の暮らしと産業を支える「釧路港」の歴史』

- ◇「釧路港」は、1899(明治32)年に開港し、当時は普通貿易港(米、麦、石炭、硫黄等)に指定されていました。現在は、酪農や農業、水産業の盛んな地域に位置する重要な港湾であり、北海道の産業とともに発展し、世界に開かれた港として、さまざまな役割を持っています。
- ◇釧路港では、飼料となる穀物の安定的供給と安価な輸送を実現するため、大型船舶による大量一括輸送を可能とする整備が行われています(平成23年「国際バルク戦略港湾」選定)。また、東北北海道地域の搾りたての生乳や季節ごとの農畜産物が、RORO船(貨物を積んだトラック等が船尾や船側にあるゲートからそのまま乗り降りできる船舶)により釧路港から首都圏へ向けて毎日輸送されるなど、日本有数の食糧供給基地である東北北海道地域の物流拠点として、重要な役割を果たしています。
- ◇「釧路臨港鉄道」は、1925(大正14)年に開通し、当時、我が国のエネルギーを担う石炭を炭鉱から釧路港へ運んでおり、道内では唯一の石炭輸送専用の臨港線として、現存しています。また、道路状況が悪い地域の開拓を進めるために作られた「簡易軌道」と呼ばれる鉄路があり、人々だけではなく農作物、牛乳輸送などに重要な役割を果たしましたが、1972(昭和47)年に、全ての路線がその役割を終えました。
- ☆本ツアーでは、東北北海道の主要産業である酪農を支える釧路港の役割や開港から現在に至るまでの歴史と、釧路港が商業港として成長するためには不可欠であった港に通じる鉄路の歴史を現地を巡りながら学び、地域の産業の変遷とインフラ整備の成果を体感します。

### 催行予定

平成30年9月～10月の期間内で2回まで【土日祝日可】(日程は調整の上決定)

### ツアー定員

各回 20名

### 諸条件等

- ツアーを企画する際は、「メニューリスト」から自由に選択いただけます(ただし、★印のメニューは必須とさせていただきます)。この他にもグルメ、観光スポットなど行程に組み入れていただけます。
  - 「1釧路市立博物館」では、釧路市教育委員会の協力により、学芸員が解説、ご案内します。
  - 「2臨港線春採駅」では、太平洋石炭販売(株)の協力により、職員が解説、ご案内します。
  - 「3旧太平洋炭礦炭鉱展示館」では、栄和サービス(株)の協力により、職員が解説、ご案内します。
  - 「5鶴居村ふるさと情報館みなくる」では、鶴居村の協力により、職員が解説、ご案内します。
  - 「6釧路港国際物流ターミナル」では、2班交替で、1班は船に乗り、現在の釧路港の整備状況を海上から見学していただきます。北海道開発局の職員が解説ご案内します。もう1班は、「釧路市水産資料展示室(マリン・トポスくしろ)」で、釧路市の協力により、職員が解説、ご案内します。
- ※催行に当たり、北海道インフラPR実行委員会による支援を受けることができます。  
 ※「釧路市立博物館」及び「旧太平洋炭礦炭鉱展示館」の見学、「農業体験」には料金がかかります。  
 ※この他の詳細については、催行応募要領をご参照ください。

### メニューリスト

1 釧路市立博物館(★)	(釧路港と産業の歴史解説)	(所要目安30分)
2 臨港線春採駅	(石炭輸送専用鉄道の見学・解説)	(所要目安20分)
3 旧太平洋炭礦 炭鉱展示館	(炭鉱産業の歴史解説)	(所要目安20分)
4 農業体験	(酪農見学(乳牛)、搾乳体験など)	(所要目安60分)
5 鶴居村ふるさと情報館みなくる	(「簡易軌道」自走客車の展示見学・解説)	(所要目安20分)
6 釧路港国際物流ターミナル・釧路市水産資料展示室(マリン・トポスくしろ)見学(2班交替)(★)	(釧路港の港湾整備状況と港湾活動を船上から見学・釧路港と水産業の歴史解説)	(所要目安120分)
地元産の食材を用いた昼食(★)	(食の専門家からのアドバイス等の支援)	